

# Economic Monitor

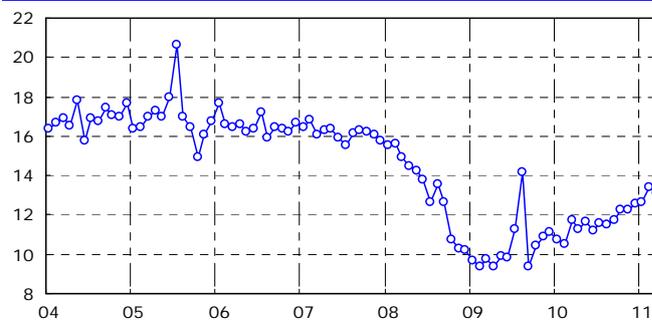
## ガソリン高の影響が垣間見える米新車販売

3月の米新車販売台数は(Light Vehicles)は年率1,311万台と、2月の1,344万台から小幅減少したものの、10~12月期の1,236万台を大きく上回り、好調に変わりはない。四半期ベースで見ても、前期比年率24.7%と、10~12月期の29.1%に続き高い伸びを維持した(Autodataベース)。

但し、ガソリン高の影響が忍び寄りつつある。3月の内訳を見ると、(相対的に)燃費の劣るピックアップトラック(Light Truck)の販売が前月比7.0%と大きく落ち込む一方、燃費に優れる乗用車(Autos)は0.4%と引き続き増加している。1~3月期では、乗用車が前期比年率54.2%の大幅増加を示す一方、ピックアップトラック(Light Truck)は1.2%とほぼ横ばいに留まる。現時点では、自動車ローンが組み易くなったというファイナンス面の改善が寄与し、燃費に優れる車種への買い替えが進んでいるため、ガソリン高は必ずしも自動車販売の障害になっていない。しかし、更にガソリン高が進行すれば、ランニングコストの上昇が自動車の保有や買替を思い止まらせ、自動車販売全体に対して悪影響をおよぼす可能性が高いであろう。

3月販売の段階では、流通在庫があるため、東日本大震災による影響は極々軽微と考えられる。トヨタは前年比5.7%と前年水準を割り込んだが、ホンダ(23.5%)や日産(26.9%)受注停止が報じられたマツダ(33.3%)も好調である。前年割れのトヨタも前年3月にリコール問題の一服から販売台数が伸びた反動が大きい。問題は4月以降である。ガソリン高を受けた消費者の燃費に対する感応度の高まりは、相対的に燃費に優れる日本車にとって有利に働くはずである。しかし、サプライチェーン途絶によって日本メーカーは需要に十分にこたえられないリスクがある。

### 米新車販売の推移(年率、百万台)



(出所)Autodata Corp.

### ガソリン価格の推移(ドル/ガロン)



(出所)CEIC Data